

授業科目名	成人看護学Ⅰ（概論）	担当教員名	小平 京子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間		●			
授業形態	講義		●-(必)・○-(選)			
授業の概要 学習目標	<p>〔授業の概要〕 成人看護の対象である「成人」を多面的に理解し、対象の特性に応じた看護を展開するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護の対象である「成人」を、成長・発達、生活、健康障害の側面からその特徴を知り、アセスメントするための視点を理解する。 2. 成人の多様な健康観や価値観を踏まえ、看護を行う上で有用な概念を知る。 3. 成人の多面的な理解を基盤にした成人看護の役割と機能を理解する。 					
授業回数	授 業 の 内 容					
第 1 回	ガイダンス 成人看護学の位置づけ					
第 2 回	発達と成長から見る成人の特長と看護の役割					
第 3 回	健康のレベルから見る成人の特徴と看護の役割					
第 4 回	成人期の健康障害の特徴と看護の役割					
第 5 回	成人看護を実践する上での技術 1 看護過程と看護診断					
第 6 回	2 看護診断と中範囲理論					
第 7 回	成人看護に生かす理論とモデル					
第 8 回	1 セルフケア理論・適応理論					
第 9 回	2 成人教育（アンドラゴジーモデル）					
第 10 回	3 健康信念モデル					
第 11 回	4 自己効力理論					
第 12 回	5 エンパワメントモデル					
第 13 回	6 自己概念					
第 14 回	7 ストレス理論・危機理論					
第 15 回	8 コンプライアンス・アドヒアランス					
第 16 回	9 病みの軌跡					
第 17 回	まとめ					
成績評価の方法	筆記試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト	大西和子,岡部聡子 編(2008)成人看護学概論,ヌーヴェルヒロカワ.					
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・Levinson,J.D.(1978)/南 博 訳(2005)ライフサイクルの心理学 上・下,講談社学術文庫. ・Rambo,J.B.(1984)/松木光子 監訳(1991)適応看護論,HBJ 出版局. ・Gavanagh,J.S.(1991)/数間恵子 他訳(1993)オレムのセルフケアモデル,医学書院. ・Bandura,A.(1995)/本明 寛 他監訳(2003)激動社会の中の自己効力,金子書房. ・Lazarus,S.R. et al.(1984)/本明 寛 他監訳(2004)ストレスの心理学,実務教育出版. ・Lindeman,C.E.(1926)/堀薫夫 訳(1995)成人教育の意味,学分社. ・Pierre Woog ed.(1992)/黒江ゆり子 他訳(2005)慢性疾患の病みの軌跡 第4刷,医学書院. 					
履修上の留意点	授業時必要な参考書を提示する。					